

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3570200638		
法人名	社会福祉法人 むべの里		
事業所名	グループホーム山門		
所在地	宇部市山門四丁目6番24号		
自己評価作成日	平成23年1月20日	評価結果市町受理日	平成23年6月27日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

目的	地域に開かれた老人福祉を実施する事を目的としている。
運営方針	思いやりと優しさを持って、お年よりの自立と尊厳を大切にします。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成23年2月18日

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点	大正琴、絵手紙、手芸、家族の方からの写真の提供などボランティアの方々との交流が多く、利用者の活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援につながっています。法人の5グループホームで開催されている高校生との園芸教室では、花・野菜の成長を見守り、収穫を体験出来るなど利用者はたくさんの人と交流されて楽しんでいます。交流運動会やクリスマス会の行事を開催するための5グループホーム合同の運営推進会議で、家族や職員が話し合わせ、地域の協力などで毎回多くの参加を得て実施しています。地域、家族との交流の広がりや5グループホームとの連携で利用者の豊かな暮らしの支援に努めておられます。
-------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活の中で地域の行事に参加したり、行動範囲の限られた方には、個別対応として園庭に椅子を出して日光浴等していただきながら、散歩されているご近所の方と挨拶等してもらっている。	「地域の人々と触れ合いながら、共に支え支えられながら今まで暮らしてきた生活観を大切に」という理念をつくり、事務室に掲示し、毎朝唱和することで共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアの受け入れを行ったり、職場体験学習で学生さんに入ってもらったりしている。	自治会に加入し、事業所だよりを地域に回覧して事業所の理解を得る努力をしている。保育園児や高校生の職場体験、ボランティア(絵手紙、手芸、手品、大正琴など)を受け入れ楽しく交流している。高校生との園芸教室では花や野菜の成長を見守ったり収穫の楽しみを体験し、散歩時に顔見知りになった人と挨拶を交わすなど地域の人とのつきあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議で民生委員さんに入ってもらっている事もあり、地域の一人暮らしの方の相談を持ってこられた事もある。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	出来る事から少しずつ取り組めるように努力している。	自己評価は管理者が実施している。評価結果の課題については全職員で話し合い検討し、業務改善などに取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の結果を会議等で検討している。少しずつだが改善できている。	市高齢福祉職員、コミュニティ会長、家族、全利用者に民生委員2人が加わり、近況報告や利用者状況、活動報告、外部評価の報告をし意見交換をしている。5グループホーム合同の運営推進会議では交流運動会、クリスマス会など合同行事について話し合うなどサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月2回介護相談員に入ってもらい気付いたことを聞いたり相談したりしている。又、生活保護受給者や介護保険関係などで担当の課との連絡相談をしサービスの質の向上に努めている。	市の担当者と申請や不明点についての相談や情報交換など連絡を取り合い協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のケース会議や山門会議の時にスピーチロックをしないよう声掛けをしているが、無意識のうちに声掛けを行っている。今後の課題です。	身体拘束マニュアルや事業所の方針を作成し、職員は拘束について理解している。法人からの講師による勉強会を予定している。玄関は施錠していない。ディーサービス職員と協力して見守り体制を続けている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の時に話しあったり職員同士お互いに注意し、声を掛けあっている。(言葉の虐待等)又、入浴時全身観察をしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が勉強会に行き、学んだ事を会議で報告している。又、必要な人には支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書・重要事項説明を行い、御家族にも不安の無いようにしてご利用していただけよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者がくつろいでおられる時に、注意や希望を聞くようにしている。又、介護相談員の受け入れにより入居者や御家族に不満の無いような環境作りが出来るように努めている。	運営推進会議や受診の同行後、面会時などで家族の意見や要望を聞き、運営に反映させている。相談、苦情の受付体制や外部機関、第三者委員を明示し処理手続きを定めて利用者、家族に周知している。介護相談員の受け入れをしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全職会議や山門会議に参加して提案を聞いている。又、何かあれば本部に相談し対応している。	管理者は職員会議や日常的に職員の意見を聞く機会を持ち、提案等は本部に相談して運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得へ向け、研修会や講習会への積極的な参加を促している。又、法人での人事、考課により一人ずつ評価している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会にも本人の意思を尊重し参加出来る環境作りに努めている。	介護福祉士等の資格取得のための法人のキャリアアップ研修に個人で受講したり、マニュアル等を利用し夜勤時に自主勉強をし、外部研修は情報提供をしている。	・全職員の研修参加機会の検討
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流会への参加や地域ブロック内での研修会に参加している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回訪問を行い本人さんとも話して解け込みやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に話しを聞いて、不安を解消して頂けるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にとって一番必要なサービスは何かを見極め、適切なサービスの紹介を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方に何が出来るかを見極め自分でも人の役に立っていると思っていただけるよう支援している。又、人生の先輩として相談したり尋ねたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来園された時、日々の暮らしてであった事をお話したり、今の状態を説明し、家族の方に安心して頂けるように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外食等のお誘いがあれば体調を見て出かけていただいている。	家族の協力を得て、県外の親族に会いに行くなど外出や外食などの支援をしている。知人との手紙のやり取りや、押し花はがきを家族等に出すなどの支援をすると共に担当者は毎月、利用者の生活状況報告を家族に届けるなど馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いの声掛け、ねぎらいの声掛けなどは平等にし、一人ひとりの方が気持ちよくお手伝いしていただけるに心掛けている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いに行ったり、相談にのったりして、不安が無いようにしていただけるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	テレビやエレクトーンを置いたり、花を飾ったりしてご本人の希望・意向の把握に努めている。	日々のかかわりの中で聞きとった利用者の言葉や、言葉にしづらい思いを汲み取って把握に努め、申し送りノートや生活日誌に記載して職員は共有している。利用者一人ひとりの把握した思いや意向を介護計画に反映させている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを見て、今迄の生活歴を理解し対応している。又、ご家族や本人の話の中から知るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の流れを記録に残し、気になる事は詳しく記録している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの担当を決め、3ヶ月に1回ケアプランを立て、ケース会議を開き話し合いを行っている。出来あがった計画書は、家族に印鑑をもらい一部渡している。	担当の職員が、利用者や家族、医師、看護師の意見を聞いて素案を作成し、計画作成担当者が計画作成したものをケース会議において全職員が検討して、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを行い、評価して見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェック表や記録を見て、その都度ケアプランの見直しを共に行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況時応じて、併設の通所介護へ伺って気分転換を図っている。又、ご家族が行かない時は、病院受診の付き添いをしたり、買い物に行ったりしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを行ったり、その方に必要な様々な機関等を把握して、すぐに対応できるように努力している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に医療機関と連絡を取り報告、指示を仰いでいる。	本人、家族の希望するかかりつけ医のほか、事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。医療機関と事業所、家族は連絡を取り合い適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心配事や、気になる事があれば連絡を取り助言してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、担当医、看護師と連絡を取り早期に退院できるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から、主治医やご家族と連絡を取りながら体調確認を行っているが、重度化された時は、住み替えをお願いしている。	入居時に事業所の方針として、ターミナルケアまでの支援は出来ないことを説明し、段階的に利用者・家族と話し合っている。重度化した場合は家族や医師、職員等とその都度話し合い、事業所でも対応し得る支援方法を踏まえて方針を共有し支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	何かあれば、主治医や訪問看護師に連絡を取り、指示を仰ぎ対応している。しかし、初期対応の訓練は定期的に行っていない為、夜間帯で一人の時は、不安な時もある。その為、早め早めの受診を心掛けている。	ヒヤリはっと、事故報告書の検討をして、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。応急手当、初期対応の定期的訓練を実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をしている。又、近くのセブンイレブンのオーナーさんをお願いし、緊急時は従業員の方に来てもらうようにしている。	年2回の避難訓練、消火器の使用訓練を実施しているが夜間想定訓練は実施していない。訓練における地域の協力体制が不十分である。	・夜間想定訓練の実施 ・地域との協力体制の検討
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃から言葉掛けに対しては、うるさく言ってきたが、管理者不在時、一部の職員が上から目線で利用者に言葉掛けをしていたと本部から注意を受けた為、月1回全員参加で認知症について勉強中です。	利用者に話しかける言葉の内容や語調などが誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしていないか日常的に確認するように努めている。一人ひとりの人格の尊重とプライバシーについての勉強会を開催している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には、ゆっくりした時に希望等お聞きしている。無理な方には、ご家族にお聞きしたり生活歴を参考にして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに添いたい出来る範囲やその日の状況に応じて動いている時もある為、職員ペースになっているところもある。少しでもゆったりして気持ちで一人ひとりの希望に添えるよう努力したいと思います		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好みの洋服を着ていただいているが、自己決定できない方は職員が選んでいる。散髪は2ヶ月に一度出張サービスを利用している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作り料理や外食に行ったり、片付けなども利用者の方と一緒にこなっている。	食事は配食を利用している。利用者は盛つけ、下膳等職員と一緒にやっている。月2回は事業所で利用者の好みを聞いておやつや昼食を作ったり、レストランに出かけて外食を楽しむなど、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下が困難な方にはトロミをつけたり、一口大に切ったりして対応している。又、本人が食べられない物がある時は、栄養士と相談し他の食品で対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。夕食後は入れ歯の方は外して曜日を決め洗浄液につけている。歯ブラシは夕食後全員消毒している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間帯を決め声掛け誘導や介助を行いなるべくトイレで排泄していただくよう支援している。排泄チェック表に個別に記入し一目でわかるようにしている。	排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1リットル以上の水分補給及び朝の掃除、ラジオ体操、ホール内歩行、散歩などを取り入れ便秘解消に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴はしているが、どうしても時間帯を決めて入って頂くようになってしまう。少しでも利用者の希望に添えるようにしていきたいです。	毎日、15時30分から17時30分頃まで入浴が可能であり、2人での入浴や、ゆっくり入浴が楽しめるよう支援している。入浴したくない利用者には時間をずらすなどの工夫をしている。必要に応じてシャワー浴、清拭の対応をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて、昼寝をしていただくように取り組んでいる。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の体調により、主治医や看護師に連絡を取り、服薬確認や薬の変更を行っている。しかし全員の職員が、すべて理解できている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本を読まれる方、新聞を読まれる方、エレクトーンを弾かれる方とその日の気分に合わせて支援している。	雑巾縫い、清掃、食事の盛り付け、下膳、洗濯物を干したりたたんだり、月2回のビデオ鑑賞、絵手紙、頭の体操、リハビリ体操、フラワーアレンジメント、エレクトーン演奏など利用者の経験や力を活かした役割や楽しみごと、気分転換等の支援をしている	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、ドライブ等で出来る限り個別に対応している。又、歩行不安な方は、外に椅子を出し日光浴をしてもらっている。	散歩、買い物、ドライブを兼ねての夕食、日光浴、地蔵参り、池の鴨の餌やりなど季節や地域のその時々状況に応じて、短時間でも戸外に出る機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は自分で持っておられた方もいたがお金がどこにいったかわからなくなるため、ご家族の了解を得て全員ホームで預っている。買物に行った時は、預った中から出している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話や手紙が来る時は、おつなぎしている。又、帰宅願望を訴えられた時は、いつ電話しても対応していただけるようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	おやつや食事時は好きな音楽をかけたり、四季を感じてもらえるよう季節の花を飾っている。又、季節ごとに写真を貼りかえたりしている。	窓からは山茶花などの木々や家並みが見え陽射しのあたる位置にソファが置かれ利用者の居場所となっている。壁面には行事の写真やうさぎのパッチワーク、家族から送られた自然の花鳥の写真などの作品が飾ってある。季節の花が活けられ、台所からはご飯の炊ける匂いがするなど、季節感や生活観があり、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子を置いて、利用者同士会話が出来るようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染の物を持ち込んでもらったり、家族の写真等飾ってもらっている。	衣装ケース、鏡台、テレビ、タンス、時計、写真など使い慣れたものや大切な物を持ち込んで、居心地の良い部屋づくりをしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動きやすいように家具を配置したり、ベットの柵をつけてご本人が起居しやすいようにしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 山門

作成日：平成 23年 6月 24日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	応急手当や初期対応の定期的訓練の実施	年間6項目を目標とし、月2回訪問の看護師や隣のデイサービスの看護師にアドバイスをもらいながら勉強会実施	H23年5,6月・・・傷の手当・止血法 7,8月・・・転倒・骨折・応急処置 9,10月・・・救急車への通報・救命手当 11,12月・・・感染予防・インフルエンザ予防 H24年1,2月・・・事故発生時対応 3,4月・・・まとめ	1年間
2	36	夜間想定訓練の実施 地域との協力体制の検討	年間最低2回、夜間を想定し訓練の実施	H23年6月24日・・・2:30～デイサービスとの合同防災訓練実施(済み) 12月と平成24年3月グループホーム夜間想定訓練実施(自治会長さんをお願いし地域の皆様に声かけし訓練に参加していただく。)	1年間
3	14	全職員の研修参加機会の検討	本部から講師に来てもらい、認知症の勉強会の実施(年12回) 山口県セミナーパークにて介護実技実習への参加	平成23年4月28日、5月30日(済み) 6月30日・7月25日 毎月月末を予定 第1回:7月19日 第2回:7月22日9:00～17:00 8月、9月も2回ずつ実施予定	1年間
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。